

復興のため、
犠牲になった人の
思いを忘れない

いざわ しろう
伊澤 史郎

双葉町長

昭和33年(1958)、双葉町生まれ。
麻布獣医科大学獣医学部卒業。1989年、イザワ動物病院を開院。
2003年から2011年まで町議会議員を務め、2011年11月に
双葉町議会副議長となる。2013年3月10日、双葉町長選に立候補し、初当選。
現在は、いわき市内に置かれた町役場いわき事務所で町政を執る。

双葉町の復興は、2017年からスタート。

「住民の帰還は難しい」とされていた帰還困難区域であっても、
要件を満たせば避難指示が解除されることになったからです。

震災の翌日、東京電力福島第一原発の水素爆発で、全町避難がはじまって10年。
現在も町域のうち約95%が帰還困難区域に指定されています。

現在はいわき事務所で、2022年の特定復興再生拠点の解除に向けて準備を
進めています。中間貯蔵施設の受け入れ決定が、震災後の取り組みで一番大変でした。
現在は町民の皆さんも、「双葉町と大熊町で除染廃棄物を受け入れるしかなかった」
と、ある程度納得されている方が増えています。しかし避難生活が継続するなか、
さらに追い打ちをかけるように、先祖伝来の土地、家屋、財産まで手放さなくては
ならなくなったわけで、その心中は察してあまりありません。町民の皆さんの
悲しみと苦しみに満ちた表情は、今でも忘れることはできません。

国民の皆さんには、犠牲になった人たちがいるからこそ、復興が進んでいることをご
理解いただきたい。今後環境省をはじめ国には、減量化と無害化・無毒化した
放射性物質への取り組みをしっかりと進めてほしいですね。



2020年10月1日、レストランやフードコート、
貸し会議室を備えた双葉町産業交流センターが開所